

華中調查速報第一九七號
昭和十六年六月

警政公報抄（邦譯） 民國三十年五月一日 第三十六號

興亞院華中連絡部

236

REEL No. A-0280

0096

アジア歴史資料センター

發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、廈門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集團總參謀長

支那派遣軍總司令部報道部長

中支那派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

九〇部

二部

二部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

漢口陸軍特務部長

支那方面艦隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長

支那方面艦隊報道部長

漢口海軍特務部長

在南京大使館

在上海、南京、漢口、各總領事

杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事

外務省大臣官房文書課

滿鐵上海事務所

東亞研究所

東京

中華民國法制研究會

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

各部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

凡 例

- 一 本報の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を轉載する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるるものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるもののみを掲載す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目 次

- 一、修正鐵路警務處服務規則……………一 頁
- 二、修正鐵路長警服務規則……………六 頁

修正鐵路警務處服務規則

(中華民國三十年四月九日公布)

- 第一條 本規則ハ鐵道警務處組織規程第十五條ニ依リ之ヲ制定ス
- 第二條 警務處ノ事務處理ハ法令ニ別段ノ定メアルヲ除クノ外總テ本規則ノ規定ニ依ル又駐在路ノ各項現行章則及警務ト關係スルモノハ且之ヲ遵守スベシ
- 第三條 處長ハ警政部特種警察署長ノ命ヲ承ケ所屬機關及職員、長警ヲ監督指揮シ駐在路ノ警務事項ヲ綜理ス副處長ハ處長ヲ輔佐シテ事務ヲ處理シ處長事故ニ因リ職ヲ離ルルトキハ其ノ職權ヲ代行スルコトヲ得處長、副處長ハ且駐在路ノ局長又ハ委員會ノ監督指揮ヲ受クルモノトス
- 第四條 課長ハ長官ノ命ヲ承ケ本課ノ職員ヲ指導シテ主管事務ヲ

分掌セシム

- 第五條 課員、事務員ハ長官ノ命及主管課々長ノ指導ヲ承ケ各該課ノ事務ヲ處理ス
- 第六條 督察員ハ長官ノ命及主管課々長ノ指導ヲ承ケ各區隊勤務及其ノ他派遣事項ノ督察ヲ分任ス
- 第七條 偵緝員(偵察逮捕員)ハ長官ノ命及主管課々長ノ指導ヲ承ケ駐在路區域內及列車ニ於ケル偵察逮捕等ノ事項ヲ處理ス
- 第八條 稽查員(檢查員)ハ長官ノ命及主管課々長ノ指導ヲ承ケ駐在路區域內及列車ニ於ケル安寧秩序並ニ衛生等ノ事項ヲ檢查シ且其ノ他派遣シタル任務ヲ處理ス
- 第九條 書記ハ電報翻譯、登記、簿書、照合等ノ事項ヲ分任ス
- 第十條 鐵道警務處ノ事務處理ハ隨時警政部特種警察署ニ報告スルコトヲ要シ若駐在路局又ハ委員會ニ報告スル必要アリト認

メタルトキハ且之ヲ報告スベシ

第十一條 鐵道警務處ハ駐在路沿線ニ對シ匪徒ノ發生又ハ特別事故アリテ指示ヲ仰グニ及バザリシトキハ豫メ駐在路局又ハ委員會ニ報告ノ上之ヲ處理シ然ル後警政部特種警察署ニ電報ニテ報告シテ査定ヲ受クルコトヲ得

第十二條 職員、長警ノ進退、移動、出張、休暇、賞罰、救恤(救濟金ヲ出シテ慰撫スル)等ハ規則ニ依リ之ヲ處理スルヲ除クノ外且各別帳簿ニ登記シ又毎月ニ八月報ヲ作成スベシ

第十三條 銃器、彈藥、服裝等ハ各別帳簿ニ登記スルコトヲ要ス平常ノ増減消耗等ノ隨時專案(特別事件)トシテ之ヲ報告スルヲ除クノ外且毎月末ニ八月報ヲ作成スルコトヲ要シ又毎年一月十日以前ニ於テハ職員、長警名簿ヲ各一回報告スルモノトス

第十四條 鐵道警務處ハ違警及刑事々件ノ處理ニ關シ重大事情ノ隨時之ヲ報告スルヲ除クノ外且毎月ニハ表ヲ作成報告スベシ

第十五條 違警ニ因ル處罰ノ金額ハ各級警察機關報知違警罰金暫行規則ノ規定ニ依リ之ヲ處理スルモノトス

所有者ナキモノノ規則ニ依ル賣得金ハ毎月表ヲ作成報告スルコトヲ要シ且該金額ヲ適當ニ保管シ警政部特種警察署ニ報告シテ決定ヲ受クルモノトシ之ガ他用ニ充ツルコトヲ得ズ

第十六條 鐵道警務處ハ拘留所ヲ設置スルコトヲ要シ人員ヲ派遣シテ總テノ拘留犯人ヲ管理シ且毎月ニハ表ヲ作成報告スベシ其ノ管理規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 鐵道警務處ノ執務時間ハ駐在路局ノ規定ニ從フベシ職員ハ總テ規定時間内ニ出應シ出勤簿ニ自署スベシ若病氣又ハ事故ニ因リ出應スル能ハザルトキハ休暇ヲ願出ゾベシ其ノ請假

規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 休日及夜間ハ各別順番ニ日直、宿直員ヲ派遣シテ各項事務ヲ處理スルコトヲ要シ緊急事件ナルトキハ隨時長官ニ報告

第十九條 鐵道警務處ハ處務ヲ整頓スル目的ヲ以テ毎月處務會議ヲ一回開催スベシ其ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 鐵道警務處辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 本規則ニ未ダ盡サザルノ事項アルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第二十二條 本規則ハ認可公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

修正鐵路長警服務規則

(中華民國三十年四月九日公布)

第一章 總 則

第一條 鐵道長警(巡查部長)ハ警察法令ヲ遵守スルヲ除クノ外

且本規則ヲ遵守スベシ

第二條 鐵道長警ハ鐵道線路ノ區域内ニ於テ警察權ヲ行使ス

第三條 鐵道長警ハ左記各項ヲ遵守スベシ

- 一 内外勤務ハ命令ヲ遵守シ苦勞ニ耐ヘ忍ブベシ
- 二 人、物ノ應接ハ親切丁寧務メテ傲慢ヲ戒ムベシ
- 三 服務ノトキハ精神ヲ振ヒ起スコトヲ要シ些少タリトモ怠惰ナル態度ヲ表ハシ爲ニ威嚴ヲ損フコトアルヲ得ズ
- 四 事件ヲ處理スルトキハ公正廉潔タルコトヲ要シ強請又

- ハ報酬ヲ受クルコトヲ得ズ
- 五 長警ハ如何ナルトキヲ問ハズ特別原因アリテ長官ノ許
可ヲ得タルモノヲ除クノ外ハ常ニ制服ヲ着用スベシ
- 六 事公務ニ關スルトキハ機密ナリヤ否ヲ問ハズ外人ト論
議スルコトヲ得ズ
- 七 商人ニ對シテハ掛ニテ買ヒ又ハ貸借スルコトヲ得ズ
- 八 集會結社ノ參加及外事ノ干涉ヲ禁止ス
- 九 飲酒、賭博ヲ禁止ス
- 第四條 鐵道長警ハ警察法規ヲ知悉スベキヲ除クノ外凡ソ關係ア
ル規則ニ對シテハ想テ隨時之ニ注意スベシ
- 第五條 鐵道長警ハ服務區域内ニ於テハ左記各事項ヲ熟知スベシ
 - 一 管轄路線區域ノ周圍及其ノ面積
 - 二 停車場ノ位置及事務ノ簡繁
 - 三 列車ノ發着度數、時刻及發着驛名

- 四 附近ノ町村名稱
- 五 附近ノ商店、料理屋、旅館、妓館（貸座敷）及金物、
指物ノ各店
- 六 人口密集シ及人民ノ良シ惡シ又ハ邊僻無人等ノ場所
- 七 橋梁及暗渠若干
- 八 隧道ノ有無及其ノ長短距離
- 九 管區内ノ道路家屋及電柱ノ詳細ナル數目
- 十 軌道、里程、道碑（道路標識）、番號
- 十一 工場及貨物倉庫若干
- 十二 停車場及各處重要官員ノ職名
- 十三 工夫頭人夫若干及其ノ姓名、品性
- 十四 各處ニ河川、溝渠ノ有無
- 十五 各處ニ井戸ノ有無及井戸小屋又ハ木蓋設備ノ有無

第二章 裝械（裝具）

第六條 鐵道長警ノ服裝及銃器ハ整然、清潔タルコトヲ要シ若汚損アルトキハ隨時洗滌シテ適宜ニ之ヲ保管スベシ

第七條 服務時間ハ長官ヨリ特別ニ派遣スルヲ除ク外携帯スベキ物品左ノ如シ

- 一 警備器具
- 二 警笛
- 三 捕繩
- 四 日記簿、鉛筆

第八條 夜間ハ且警備燈又ハ懐中電燈ヲ携帯スベシ

第九條 服務時間中ハ通常警備棒又ハ警刀ヲ携帯スベシ但シ必要アルトキハ銃器ノ携帯ヲ命ズルコトヲ得

第十條 鐵道長警ハ職務執行ノ必要ニ因リ警械使用條例ニ依リ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 警笛ヲ使用スルトキハ左記規定ニ依ルベシ

- 一 列隊準備
 - 一長聲
 - 二 集合
 - 二長聲
 - 三 火災ノ注意
 - 三長聲
 - 四 盜賊捕縛及其ノ他ノ救助事項
 - 一短聲
 - 一長聲
- 其ノ他ノ諸事ニ關シテハ其ノ時ノ情況ニ因リ臨時ニ記號ヲ規定スベシ

第十二條 服務中警笛ノ音ヲ聞キタルトキハ直ニ之ニ赴クヲ除クノ外若前條第三項第四項ノ事情ニ遇ヒタルトキハ之ニ呼應シテ警笛ヲ鳴ラシ外ノ警官ヲ召集シテ協助セシメ以テ力量ヲ増加スベシ

第三章 職權

第十二條 出勤シタルトキハ左記事項ヲ日記簿ニ記載シテ長官ニ報告スベシ

- 一 期日及氣候
- 二 本日勤務ノ經過事實及休息時間
- 三 服務時間及場所ニ付若停車場ノプラットホーム又ハ路線ニ在ルトキハ列車ノ往復回數及乗降車ノ重要人員又ハ特別乗客ヲ明記スベシ
- 四 警乗服務ノトキハ列車ノ往復回數及發着驛名、時刻ヲ明記シ且所持セル乗車證ノ番號ヲ明記スベシ
- 五 違警又ハ其ノ他ノ事項ニ遇ヒタルトキハ其ノ概要ヲ記載スルコトヲ要シ事情ノ比較的重大ナルトキハ且隨時長官ニ報告スベシ
- 六 其ノ他ノ事項

11

245

第十三條 鐵道長警ニシテ工人ガ刑事犯罪又ハ違警ニ涉ルモノアル

コトヲ發覺シタルトキハ地方警察ノ職權ヲ執行スルコトヲ要シ且隨時長官ニ報告シテ處理ヲ仰グベシ

12

第十四條 緊急事故ノ發生ニ遇ヒ倉惶トシテ警笛ヲ鳴ラシ援助ヲ求メタルモ仍之ヲ制止スル能ハザルトキハ直ニ長官ニ報告シ且之ヲ地方警察及最寄ノ軍隊ニ通知シテ援助ヲ請フベシ若地方警察ノ追捕セル犯人ガ鐵道界内ニ逃入シタルトキハ鐵道長警ハ直ニ追捕ニ協力スベシ

第十五條 違警又ハ刑事罪犯ヲ捕獲シタルトキハ直ニ犯人及附屬物品ヲ帶同シ長官ニ報告シテ處理ヲ仰グベシ但シ刑事事件ナルトキハ該管長官ヨリ法院ニ轉送シテ之ヲ處理スルコトヲ要ス若進行中ノ列車内ニ於テ犯人ヲ捕獲シタルトキハ之ヲ護送シ

テ次ノ驛ノ警察長官ヲ經由法院ニ轉送シテ處理ヲ受クベシ
車ノトキニ捕獲シタルトキハ即時之ヲ移交スベシ
第十六條 左記ノ違禁物品ヲ携帯セルモノヲ逮捕シタルトキハ犯人
ト共ニ之ヲ拘留シ前條ニ依リテ各別ニ之ヲ處理スベシ

- 一 携帯許可證ノナキ銃器、彈藥
- 二 爆發藥、爆彈ノ密輸入
- 三 火藥製造原料ノ密輸入
- 四 阿片、モルヒネ及其ノ他ノ毒品ノ密輸入
- 五 風俗妨害ノ書畫、玩具
- 六 鹽ノ密輸入
- 七 其ノ他法令ニ禁止シタル物品

第四章 守望（見張シテ敵ヲ防グ）

第十七條 守望ハ一定ノ場所ニ在ルコトヲ要シ、撞ニ離ルルコトヲ

得ズ凡ソ見聞シタルコトハ總テ注意スベシ

第十八條 守望ノトキハ精神ヲ職務ニ貫注（一心不亂）スベシ人ヨ
リノ訊問事件ニ對シ之ヲ解答スベクヲ除クノ外撞ニ休息、唱
歌、舞踏、吃煙、飲酒、讀書、零細物ノ買食、人ニ代リテ仕
事ヲ爲シ、冗談及註釋ゲ、坐臥又ハ其ノ他一切ノ不規則行爲
ヲ行フコトヲ得ズ

第十九條 夜間ノ守望ハ前二條ノ規定ヲ遵守スルヲ除クノ外且精神

ヲ振ヒ起スコトヲ要シ假寐及倦怠狀態アルコトヲ得ズ

第二十條 暴風雨、大雪ノトキハ暫時避風閣（駐在小屋）ニ入ルコ
トヲ得但職務ニ對シテハ仍特別ニ注意スベシ

第二十一條 違禁ヲ知ラザル人ニ遇ヒタルトキハ先ニ之ヲ勸告阻止ス
ベシ若不服ナルトキハ直ニ警察所ニ拘引シテ長官ノ裁決ヲ仰
グベシ之ガ私ニ毆打又ハ恥辱罵言ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 官吏、外國人、陸海軍人員及其ノ他ノ警察所ニ留置スルニ都合悪キ者ニシテ若之ガ違警ノ事情アルトキハ本人ヨリ名刺ヲ受取り其ノ住所、職務ヲ明カニ問ヒ詢シ之ヲ長官ニ報告シテ處理ヲ仰グベシ

第二十三條 勤務ノ際若交替者ガ遅刻シタルト雖モ先ニ退勤ヲ爲スコトヲ得ズ但シ退勤後ハ其ノ事情ヲ長官ニ報告シテ處理ヲ仰グコトヲ得

第一節 站台（停車場ノプラットホーム）
第二十四條 守望警士（巡查）ハ停車場ノプラットホームニ對シ秩序維持及安全保護ノ責ヲ有ス

第二十五條 旅客ガ未ダ乗車券ヲ買ハザルニ驛ニ入ラントスルトキハ驛員ヲ援助シテ之ヲ勸告阻止スベシ但シ乗車券ヲ買フニ及バズ車上ニ於テ乗車券ヲ購入スベキコトヲ豫メ聲明シタルトキ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 旅客ニ對シテハ隨時適當ニ之ヲ保護スベシ重要人員、軍隊及外國人婦女ガ驛ニアルヲ見タルトキハ無用者ノ圍ミ見ヲ禁止スベシ

第二十七條 客人ノ乗降車ノトキハ先後順番ニ乗降スルコトヲ命ズルコトヲ要シ押合フコトヲ得ズ

第二十八條 プラットホームニアル貨物ニ對シテハ隨時之ヲ監視スルコトヲ要シ又旅客ノ行李ニ對シテハ依頼アリヤ否ヲ問ハズ總テ代リテ之ヲ注意スベシ

第二十九條 旅客ガ發車ノ列車ヲ知ラズ又ハ某プラットホームニ列車ヲ待ツ必要ナキトキハ明白ニ之ヲ指示スルコトヲ要シ若訊問アルトキハ親密ニ應答スベシ

第三十條 列車ガ已ニ發車シタルモ旅客ノ行李ガ未ダ上車セザルト

キハ驛長ニ通知シ驛長ヨリ次ノ驛及車長若ハ車上警官ニ通知シ所有主ヲ明査シテ其ノ行李ヲ次ノ驛ニ移交シテ所有主ニ交付スベシ

第三十一條 旅客ノ遺留物アルコトヲ發見シタトキハ直ニ本人ニ通知スベシ所有者ナキ遺留物ヲ拾ヒタルトキハ之ヲ長官ニ提出シテ遺留セル人ニ受取ラシムベシ

第三十二條 旅客ガ驛ニ至リタルモ地方ノ事情ヲ知ラズ之ガ爲種々ノ困難アリ又ハ婦女、幼兒ガ方向、伴侶ヲ迷ヒ失ヒタル等ノ事情アルトキハ詳細ニ指導シ適宜ニ之ヲ保護スベシ

第三十三條 旅客中ニ病氣ニ患リタル者アルトキハ其ノ情況ヲ明査シ長官ニ報告シテ之ヲ處理又ハ緊急ノ處置ヲ仰グベシ

第三十四條 發車後又ハ停車前ニアリテハ旅客ノ乗降ヲ阻止スルコトヲ要シ以テ危險ヲ免ルベシ

17

18

第三十五條 旅客ガ下車ヲ間違ヒタル場合確ニ降車驛ヲ間違ヒタルモノナルトキハ驛長ニ報告シテ處理ヲ受クベシ

第三十六條 夫役人夫又ハ旅客案内者若ハ小商人ハ鐵道局ノ許可ヲ經テ番號ノ付ケアル衣服又ハ銅牌ヲ佩ヒタルモノニ非ザレバ驛ニ入ルコトヲ阻止スベシ

第三十七條 旅客ノ携帶行李ヲ人夫ガ強イテ運搬セントスルトキ又ハ規則以外ノ運賃ヲ強要スルトキハ之ヲ禁止スベシ

第三十八條 旅客ノ行李ヲ人夫ガ故意ニ運搬セズ又ハ運搬スベキ人夫ガ缺乏シタルトキハ之ヲ勸導(勤メ導キ)又ハ代リテ招致スベシ

第三十九條 ブラツトホームニ於テ特別ニ注意スベキ者左ノ如シ

一 酒亂者

二 瘋癲者(氣狂)

- 三 十二歳未満ノ子供
 - 四 婦女ノ隨伴者ナキ者又ハ婦女、子供ヲ同伴シテ態度ノ倉惶タル者
 - 五 違禁物ニ類似スル物ヲ携帯セル者
 - 六 ブラツトホームヲ徘徊シ他人ノ行囊ヲ窺探（ウカガヒ探ル）スル者
 - 七 傳染病者
 - 八 其ノ他形跡ノ疑フベキ者
- 第四十條 乗客ガ列車ヲ乗降スルトキハ賊ノ機ニ乗ズル窃盜ヲ嚴重ニ防グベシ
- 第四十一條 窃盜セラレタル物ヲ發見逮捕シタル場合若被害者ガ現場ニ於テ件數、形狀ノ説明ヲ爲シ之ガ検査ト相違ナキトキハ直ニ其ノ原物ヲ被害者ニ交付シテ乗車セシメ滞留スルコトヲ得

- ズ但シ該被害者ノ姓名、住所ヲ明ニ問ヒ訊シ又ハ名刺ヲ受取リテ調査ニ備フルコトヲ要シ又逮捕シタル犯人ヲ警察所ニ連行セシメテ長官ノ處理ヲ仰グベシ
- 第四十二條 違禁物品ヲ捕獲シタルトキハ其ノ携帯者ヲ物品ト共ニ警察所ニ連行セシメテ之ヲ處理スベシ
- 第四十三條 ブラツトホームノ警士ハ毎日該驛ノ發車及該驛ヲ通過スル各項車輛ノ番號、時刻ヲ詳細ニ日記スベシ
- 第四十四條 停車場附近ハ車馬ノ疾走スルコトヲ得ズ且規定セル場所ニ停車セルヤ否及乗客ヲ強要スル等ノ事情有リヤ否ニ注意スベシ
- 第二節 票房（賣札所）
- 第四十五條 旅客ガ乗車券ヲ買フトキハ親切タルベシ順次ニ進行スルコトヲ勸令シ（勸シ命令シ）押シ合ヒテ秩序ヲ紊亂スルコト

ヲ得ズ

第四十六條 旅客が乗車券ノ發賣及發車時間、列車回数又ハ乗車賃金ノ
ノ詢問アルトキハ明瞭ニ回答スベシ

第四十七條 旅客が乗車券ヲ買ヒタル鈞リ錢又ハ貨幣ノ通行シ能ハザ
ルニ因ル驛員ト爭執アルトキハ婉曲ニ之ヲ仲裁スベシ

第四十八條 偽造貨幣ヲ所持シテ乗車券ヲ購買セントシテ驛員ニ發見
セラレタル犯人ノ交付ヲ受ケタルトキハ直ニ警察所ニ連行セ
シメテ處理スベシ

第四十九條 票房（賣札所）守望ノ特別防備事項左ノ如シ

- 一 公然ニ銃器又ハ其ノ他ノ危險物ヲ携帯シテ票房ニ入ラ
ントスル者
- 二 黨ヲ組ミ票房附近ニ於テ様子ヲ見タル者
- 三 深夜ニ物品ヲ携帯シテ票房ヲ出入スル者

四 驛員ニ對シ強迫行爲ヲ加ヘントスル者
五 拘摸、小盜

第三節 軌道

第五十條 軌道ノ守望ハ軌道ニ障礙物及其ノ他危險ノ虞アリヤ否ニ

注意スベシ

第五十一條 軌道附近ハ無用者ノ徘徊及立ち止リヲ禁止スベシ

第五十二條 若軌道ヲ損壞シテ附屬品ヲ竊盜スル者アルトキハ直ニ之
ヲ逮捕スベシ

第五十三條 軌道内又ハ附近ニ若堆積物品アリテ列車ノ進行ヲ妨害ス
ルモノアルトキハ速カニ之ヲ撤去スルコトヲ命スベシ

第五十四條 軌道上ニ停車セル貨物ヲ積込ム車輛ニ對シテハ小賊ノ竊
盜企圖アリヤ否ニ注意スベシ

第五十五條 軌道上ニ停車セル石炭車ニ對シテハ車上ニ登攀又ハ車底

ニ潜伏シ石炭ノ窃取ヲ禁止スベシ

第五十六條 列車往來ノトキハ軌道内ヲ横斷スルコトヲ禁止スベシ未
ダ柵ノ設ケナキトコロニ於テハ且交通秩序ニ注意スベシ

第五十七條 軌道附近ニハ盜賊ノ集合アリヤ否隨時嚴密ニ防備守望ス
ルコトヲ要シ又隧道、橋梁ニ對シテハ嚴密ニ盜賊ノ妨害及行
人ノ危險ヲ防備スベシ

第五十八條 軌道上ノ螺旋釘不足シ又ハ未ダ堅ク之ヲ螺旋セズ若ハ軌
道ニ損壞等ノ事情アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ工人ニ通
知シ之ヲ工務人員ニ報告シテ之ヲ處理スベシ

第五十九條 軌道上ニ若損壞又ハ各項危險ノ事情アリ汽車正ニ到着ス
ルモ之ヲ修理スルニ間ニ合ハザルトキハ方法ヲ講ジ危險ヲ表
示シテ列車ノ前進ヲ阻止スルコトヲ要シ且即時驛員ニ通知シ
テ處理セシムベシ

第六十條 列車通過ノトキハ車輛ニ發火アリヤ否ニ注意スベシ若燃
焼又ハ一切ノ危險事情アルトキハ直ニ警笛ヲ鳴ラシ又ハ舉手
シテ停車ヲ命ジ且車掌ニ通知スベシ

第四節 廠棧（工場、倉庫）

第六十一條 材料、車庫、貨物庫等ノ所ハ總テ眞面目ニ防備スベシ

第六十二條 夫役人夫等ガ廠棧ニ入りテ工作セントスルトキハ各該路
局ノ發行セル銅牌又ハ番號衣ヲ着用スルコトヲ要ス若之ガ番
號衣ヲ着用セズ又ハ銅牌ノ携帯ナキ者ハ廠棧ニ入ルコトヲ禁
止スベシ

第六十三條 廠棧等處ノ職員、工夫ガ材料等ノ物品ヲ持テ出ス際若證
明書ナキトキハ事由ヲ明ニ問ヒ訊シテ日記簿ニ記載スベシ廠
棧等處ノ職員、工夫ニ非ザル者ガ公有物類似ノ物品ヲ携帯シ
テ廠棧外ニ出デントスルトキハ注意シテ調査スベシ

第六十四條 左記事項ハ之ヲ禁止スベシ

- 一 廠棧等ノ所ニ於テ吃煙、飲酒、賭博ヲ爲スモノ
- 二 無頼、放浪者、乞食等ノ廠棧等ノ所ニ停留スルモノ
- 三 門外ヲ徘徊シ類ニ廠棧等ノ所ヲ窺ヒ見ルモノ
- 四 廠棧等處ノ附近ニ火ヲ放チ危險ノ虞アルモノ
- 五 鐵道ノ職員、工夫ニ非ズシテ理由ヲ聲明セズニ廠棧等處ニ撞ニ入ルモノ
- 六 廠棧等ノ所ニ於テ爭論シ違警ニ涉ルモノ
- 七 廠棧等處ニ於テ發火引火ノ容易ナル物ヲ私用シタルモノ

第六十五條 左記事項ハ特別ニ注意スベシ

- 一 故ナク屢次廠棧等ノ所ヲ出入スルトキ
- 二 夜間ニ突然銃聲又ハ人聲ヲ聞キタルトキ

- 三 煙又ハ硝石ノ臭味アリテ發スル處不明ナルトキ
- 四 工人ガ廠棧等處ニ於テ工作時間外ニ法外ナ行爲アリヤ否
- 五 堆積貨物ニ倒崩ノ虞アリヤ否

第五章 巡 邏

第六十六條 巡邏ハ守望ノ線路監視ノ及バザルモノヲ補助スルモノニシテ其ノ責任ハ守望ト相同ジ

第六十七條 巡邏ハ一定ノ崗位(巡査ガ一定ノ場所ニ就キテ見張ヲナス所)ヲ以テ標準トシ出發ノ崗位ヨリ最終ノ崗位迄トス一崗位ヲ經過スル毎ニ總テ相互ニ號牌(番號札)ヲ交換スベシ
第六十八條 巡邏ノ號牌ハ崗位及號數ヲ明書ス黒地ニ白字、白地ニ黒字ノ二種ニ分ツ
白地ニ黒字ノ號牌ハ守望ノ警士之ヲ携帯シ黒地ニ白字ノ號牌

ハ巡邏ノ警士之ヲ携帶スルモノトシ相互ニ之ヲ交換ス各退勤
スルトキハ警察所ニ返還スルモノトス
腕牌ハ長サ三寸、巾一寸、厚サ三分ノ木板又ハ瑠璃質ヲ以テ
之ヲ製ス

第六十九條 巡邏ハ守望ニ應ジ毎次ノ站崗（巡査ガ一定ノ場所ニ就キ
テ見張ヲナス）時間内ニ一回巡廻スルモノトス

第七十條 巡邏ノトキハ一定ノ路線ニ依リ眞面目ニ視察スルコトヲ
要シ故ナク職員及線道工夫ト談笑スルコトヲ得ズ

第七十一條 巡邏ノトキハ橋梁、石梁（石ノ積ミ上ゲタル所）隧道、
岔道（道ノ分岐點）暗渠、河堤（河ノ堤防）電線、電柱、軌
道、控鐵（繼目板）墊板（鐵道ノ枕木）道釘（イヌクギ）等
ニ對シ特別ニ注意スベシ若損壞又ハ不足アルトキハ各別ニ第
五十七條及第五十八條ニ依リ之ヲ處理スベシ

第七十二條 軌道上又ハ隧道内ニ磚石（煉瓦又ハ石）及其ノ他ノ障礙
物ノ放置アルコトヲ調査シタルトキハ直ニ之ヲ除去スベシ若
放置者ヲ發見シタルトキハ警察所迄之ヲ連行セシメ長官ニ報
告シテ處理スベシ

第七十三條 列車ニ向ヒ煉瓦、石又ハ其ノ他ノ物ヲ投擲スル者アルト
キハ直ニ警察所ニ連行セシメ長官ニ報告シテ處理スベシ

第七十四條 巡邏ノトキ若郷民ガ鐵道附近ニ於テ焚火セルコトヲ發見
シタルトキハ直ニ之ヲ禁止スベシ

第七十五條 軌道内ニ人ガ爭論又ハ坐臥スル者アルトキハ直ニ之ヲ驅
逐スベシ

第七十六條 軌道ノ附屬物品ヲ窃盜シ又ハ道路、電線、電柱ヲ損壞ス
ル者アルヲ發見シタルトキハ直ニ警察所ニ拘留シ長官ニ報告
シテ處理スベシ

第七十七條 列車ヨリ跳ビ下リタル者アルヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ訊問シ警察所ニ連行セシメテ處理スベシ

第七十八條 負傷、病氣、死亡ニ遇ヒタルトキハ直ニ長官ニ報告シ醫院ニ送り届ケ又ハ法院ニ通知シ之ヲ檢屍埋葬スルモノトス

第七十九條 深夜巡邏ノ特別注意事項左ノ如シ

- 一 軌道上ニ障礙アリヤ否
- 二 軌道附近及隧道内ニ匪賊ノ潜伏アリヤ否
- 三 見張警士ニ怠慢アリヤ否
- 四 夫役ノ移動ニ對シ職務怠慢アリヤ否
- 五 路燈消滅セルヤ否

第八十條 巡邏ノトキ事故ニ遇ヒタルトキハ其ノ詳細ナル事情ヲ日記簿ニ記録シテ長官ニ報告スベシ

第六章 緝捕（捕縛）

第八十一條 事件ノ偵査捕縛ハ周密勇敢ヲ以テ破獲（事露顯シテ捕縛セラル）ヲ期スルコトヲ要シ之ヲ漏洩スルコトヲ得ズ其ノ事件緊急ニシテ關係重大ナルトキハ尤モ特別迅速ニ方法ヲ講ジテ之ヲ逮捕スベシ

第八十二條 捕縛スベキ犯人ガ若鐵道範圍外ニ逃走シタルトキハ地方警察ニ通知シテ援助ヲ請フベシ

第八十三條 事件ノ偵査ニ付若確實ナル事情ヲ得タルトキハ遲滯ナク之ヲ報告スベシ

第八十四條 若捕縛シタル者ノ逃走ヲ虞ルルトキハ所在地ノ崗警（一定ノ場所ニ就キテ見張ヲ爲ス巡査）又ハ地方警察ニ通知シテ援助ヲ請フベシ

第八十五條 事件ノ偵査及捕縛ニ對シテハ怨ヲ持チ又ハ私情ニ囚レ之ヲ庇護スル等ノ事情アルコトヲ得ズ

第八十六條 捕縛シタル犯人が刑事嫌疑ニ涉リ法院ニ送リテ審理スベ

キモノアルトキハ長官ニ報告シテ處理ヲ仰グベシ

第八十七條 捕縛シタル犯人ニ對シテハ凌虐(苦シメ虐シメル)又ハ

故意ニ放任セシムル行爲アルコトヲ得ズ若規則ヲ遵守セザル

者アルトキハ嚴重ナル拘束ヲ施スコトヲ得

第八十八條 捕縛シタル犯人ノ金錢、衣服等ハ私ニ之ヲ扣留スルコト

ヲ得ズ若違禁物品ヲ携帯シアルトキハ直ニ長官ニ報告シテ處

第七章 拘置

第八十九條 暫時拘留ヲ受ケタル人ハ政府ヨリ食事ヲ給與ス若外ヨリ

被拘留者ニ食物ノ届ケアルトキハ之ヲ注意検査スルコトヲ要

シ且長官ニ報告シテ許可ヲ受クベシ

第九十條 暫時拘留ヲ受ケタル人ニシテ若人ガ之ト面會セントスル

トキハ長官ノ許可ヲ經ルコトヲ要シ且適當ナル監視ヲ加フベ
シ書信ヲ送送セントスルトキハ検査ヲ經ルモノニ限り始テ之
ヲ交付スルコトヲ得

第九十一條 犯人ガ突然罹病シ又ハ非常事故アルトキハ直ニ長官ニ報

告シ適宜ニ之ヲ治療又ハ保釋ヲ爲スベシ

第九十二條 被拘束者ガ頓死シタルトキハ其ノ情況及時期ヲ記載シ長

官ニ報告、法院ニ通知シ検屍ヲ爲サシメ一方被拘束者ノ家族

ニ通知シテ受取ラシムベシ

第九十三條 天災ノ非常事變ニ遇ヒタルトキハ長官ニ申請シテ被拘束

者ヲ適當ナル場所ニ安置スベシ

第八章 諜報

第九十四條 諜報ハ防備勤務中ノ最重要ナル一部分ナリ便衣警察及密

探之ニ任ズ

第九十五條 探偵員ハ隨時匪賊ノ情況ヲ探査スルコトヲ要シ外ニ在リテ遊惰シテ職守ヲ放棄スルコトヲ得ズ

第九十六條 探偵員ガ消息ヲ得タルトキハ方法ヲ講ジ確實ニ探査シテ長官ニ報告スルコトヲ要シ敷衍塞責（ヨイ加減ニシテ責任ヲ逃レル）スルコトヲ得ズ

第九十七條 探偵員ノ特別注意事項左ノ如シ

- 一 各驛附近ニ匪賊ガ變裝シテ探査スル消息ノ事情アリヤ否ヲ探査ス
- 二 沿線及各驛附近ノ鄉村ニ匪賊發生タル不審事情アリヤ否ヲ報告ス
- 三 沿線及各驛附近ノ鄉村ニ遊民ノ治安妨害等ノ事情アリヤ否ヲ觀察ス
- 四 沿線ノ各驛附近ニ土匪ノ發生事情アリヤ否ヲ調査ス

五 匪徒ノアル場所及勢力並ニ意向ヲ探査ス

第九十八條 探査ニ因リ得タル確實ナル消息ハ左記ノ表式ニ依リ之ヲ作成シテ長官ニ報告スベシ（表略）

第九十九條 探偵員ハ各驛ニ於ケル旅客ノ乗降情況及各地ノ情況ヲ毎日隨時該管長官ニ報告スベシ重要事項ナルトキハ該管長官ヨリ直ニ警政部長官ニ報告シテ査定ヲ仰グベシ

第九章 護車

第一節 護車

第一百條 護車ノ長警（巡查部長又ハ警部補）ハ隨時巡察スルコトヲ要シ任意ニ車上ニ於テ坐臥、喧笑（騒ギワメキ笑フ）スルコトヲ得ズ

第一百一條 護車ノ長警ニシテ左記ノ事項ニ遇ヒタルトキハ適當ニ之

ヲ處理スベシ

- 一 旅客ガ行李ノ放置ニ因リ各種ノ障礙發生シタルトキハ
勸告指導シテ適當ニ之ヲ安置スベシ
- 二 旅客ニ若爭論又ハ車務人員ト爭論スル事情アルトキハ
隨時之ヲ仲裁スベシ
- 三 婦女子乗車シタルモ若坐席ナキトキハ車務人員ニ通知
シテ適當ニ之ヲ安置スベシ
- 四 旅客ガ扉ノ外ニ立チタルトキハ之ヲ勸メテ中ニ入ラシ
ムベシ
- 五 旅客ニ形跡疑フベキ者アルトキハ之ヲ注意シテ偵察ス
ベシ

第一百二條 護車ノ長警ハ車務人員ト協力シテ乗車券ヲ検査スルコト
ヲ要シ若乗車券ナキ乗客アルトキハ車務人員ニ於テ規則ニ依

リ之ヲ處理スベシ

- 第一百三條 乗客ニ老人又ハ病人アリテ乗降車スルトキハ之ヲ注意保
護スベシ
- 第一百四條 乗客ガ若鐵道規則ニ違反スル者アルトキハ詳細キ之ヲ解
釋スルコトヲ要シ若爭論、毆打シテ人ヲ傷害シ又ハ意外ノ事
件發生シタルトキハ列車着驛ノトキニ驛ノ構内巡查ニ交付シ
テ處理セシムベシ
- 第一百五條 車上ニ婦女子ヲ携帯シタル形跡疑フベキ者アルトキハ特
別ニ注意スルコトヲ要シ若誘拐ナルコトヲ發覺シタルトキハ
長官ニ交付シテ處理ヲ受クベシ
- 第一百六條 乗客ト事件ヲ接渉スルトキハ親切丁寧タルコトヲ要シ傲
慢粗暴ノ言論アルコトヲ得ズ
- 第一百七條 該處長警ノ上車ニ遇ヒタルトキハ無料乗車券又ハ偽造乗

車券ノ有無ヲ検査シ詳細ニ之ヲ記載シテ本管長官ニ報告スベシ

第一百八條 車上ニ若護送犯人アルトキハ協力シテ之ヲ防備スベシ

第一百九條 護車ノ長警ハ隨時窃盜、匪徒ガ車内ニ潛伏シアルヤ否ヲ

調査スルコトヲ要シ深夜ニ於ケル乗客ノ熟睡及乗客ノ乗降車

ノトキニハ且車務人員ヲ監督シ意ヲ加ヘテ防備スベシ若車上

ニ於テ會テ窃盜ヲ働キタル者ニ遇ヒタルトキハ特別ニ之ヲ調

査スルコトヲ要シ且其ノ行動ヲ監視スベシ

第一百十條 車上ニ窃盜犯ヲ捕縛シタルトキハ適當ニ之ヲ監視シ本規

則第十五條ニ依リ之ヲ處理スベシ

第一百十一條 捜査シ得タル贓物又ハ其ノ他ノ遺失物ニ對シ調査シタ

ルモ所有主ナキトキハ長官ニ送付シテ遺失者ニ受取ラシムベ

第一百十二條 車上ニ窃盜犯人ノ跳ビ下リ逃走ニ遇ヒタルトキハ車長

ト相談シ列車ヲ暫時停車セシメ以テ追撃ノ便ヲラシムベシ但

シ列車ノ前進時刻ヲ誤ラザルモノヲ以テ限トス

第一百十三條 若匪徒又ハ無知ノ子供ガ車内ニ向ヒ煉瓦、石等ノ物ヲ

放擲シタルトキハ車輪又ハ乗客ノ身體ヲ損傷セルヤ否ヲ問ハ

ズ該處附近ノ村名、里程、道路標識等ヲ明記シ列車ノ次牌

到着ノトキニ之ヲ牌ノ構内逕査ニ通知シ適當ニ處理ヲ爲サシ

ムベシ

第一百十四條 車上ニ重要人員アルヲ發見シタルトキハ適當ニ之ヲ世

話スベシ

第一百十五條 列車ノ坐席及貸切り室又ハ車内ノ窓、壁等ノ所ハ隨時

之ヲ巡視スルコトヲ要シ若汚穢不潔アルトキハ直ニ車掌ニ通

知シテ之ヲ掃除セシムベシ

第一百十六條 車上ノ食堂及食物ノ販賣ニ對シテハ隨時不潔又ハ不衛

生等ノ事情アリヤ否ニ注意スベシ

第一百十七條 車上ニ傳染病又ハ其ノ他ノ疾病ヲ發見シタルトキハ直

ニ車長ニ通知シ豫防又ハ應急治療ヲ施行スベシ

第一百十八條 瘋癩、酒亂者ガ人ニ對シ狂暴行爲アルトキハ暫時之ヲ

拘束スルコトヲ得

第一百十九條 車上ニ於テ死亡シタルトキハ次ノ驛ニ其ノ親族ニ命ジ

テ運ビ降スモノトシ若親族、親友ナキトキハ驛ノ構内巡査ニ

通知シ一方長官ニ報告シ之ヲ地方警察機關又ハ法院ニ通知シ

テ處理ヲ爲サシムベシ

第一百二十條 護車警察官ハ列車ノ着驛後旅客及行李ノ全部降車シタ

ル後ニ始テ列車ヨリ離ルルコトヲ得

第二節 貨車

第一百二十一條 貨車ヲ守護スル長番ニシテ貨車ノ積ミ込ミ適當ナラ

ズ又ハ封誌(封シ目)堅固ナラサル事情アルコトヲ發見シタ

ルトキハ直ニ該管ノ驛長ニ通知シテ整理ヲ爲サシムベシ

第一百二十二條 護車警察官ハ每班運貨備査表册(貨物運輸檢査表)

ヲ備フベシ其ノ表式左ノ如シ(表略)

前項ノ表册ハ貨物庫守護ノ警察官ニモ亦之ヲ適用ス

第一百二十三條 貨車ノ封誌(封シ目)ガ途中ニ於テ若損壞ノ事情ア

ルトキハ車上警察官ハ直ニ車長ニ通知シテ檢査ヲ爲サシメ且

表册ノ備考欄内ニハ事由ヲ明記シ以テ調査ニ備フベシ

第一百二十四條 護車警察官ガ交替スルトキハ相互ニ封シ目、覆シ

ト、焼印ニ破損アリヤ否ヲ檢査シ現場ニ之ヲ引繼クベシ若驛

倉庫入ノトキハ該驛ノ驛長ヨリ倉庫守護ノ警察官ヲ監督シ封

誌(封シ目)ヲ檢査シ各別ニ表册内ニ署名シテ之ヲ引繼グベ

第一百二十五條 護車警察官ハ貨車ノ發車前ニ封誌（封シ目）ヲ検査シタル情况ヲ備查表内ニ記載シ署名シテ之ヲ引繼グベシ

第一百二十六條 貨車ヲ守護スル長警ハ左記ノ各項ニ對シテハ注意ヲ加フベシ

- 一 貨車ガ驛ニ停車シタルトキハ該驛ノ驛長及該列車ノ車長ト協同シテ封誌（封シ目）ニ異狀アリヤ否ヲ検査スベシ
- 二 驛ニ石炭灰飛ビテ危險アリヤ否
- 三 沿線ノ急坂及橋梁ニテ列車進行ノ遲緩セル場所
- 四 森林及草木繁茂又ハ荒廢邊僻ノ場所
- 五 深夜沿線ニ窃盜ノ潛伏アリヤ否

第一百二十七條 貨車ヲ守護スル長警ハ左記ノ各項ニ對シテハ禁止ヲ

加フベシ

- 一 未ダ驛長ガ貨物運輸書内ニ署名セズニ擅ニ貨車ニ運ビ入レタルトキ
- 二 貨車内ニ於テ喫煙シタルトキ
- 三 車底ニ潛伏シテ窃盜ヲ意圖シタルトキ

第一百二十八條 第一百二十五條第二項乃至第五項及前條ノ第三項ハ客車守護ノ長警ニモ之ヲ適用ス

第一百二十九條 各驛ニ停車シテ封誌（封シ目）ヲ検査スル時若變動アルトキハ該驛ノ驛長ニ通知シテ更ニ封誌（封シ目ノ印）ヲ押捺スベシ但シ仍該列車ノ驛長及護車ノ警察官ニ於テ責ヲ負フモノトス

第一百三十條 貨車ガ各驛ヲ經過スルニ若停車ガ六時間ヲ超ユルトキハ該驛ノ驛長及倉庫警察官ヨリ貨物ヲ検査シテ之ヲ受領スル

コトヲ要シ且貨物簿ノ備考欄内ニ引繼ギノ情況ヲ明記シ之ガ
發車スル場合ハ更ニ車長及護車警察官ニ引繼グベシ

第三節 警 備

第一百三十一條 必要アルトキハ適宜護路隊ヲ派遣シ隨車シテ護車ノ
任ヲ擔任セシムルコトヲ得

第一百三十二條 護車ヲ護路隊ハ一部分ヲ順番ニ各車ノ守望ニ配置ス
ルコトヲ要シ且主力ヲ武装車内ニ集中シ隊ヲ引率スル官長ニ
於テ直接之ヲ指揮スベシ

第一百三十三條 隊ヲ引率スル官長ハ各車ニ配置シタル警備兵ニ對シ
テハ適當ニ連絡ノ方法ヲ定ムルコトヲ要シ官長ハ勤務上ノ必
要ヲ除クノ外ハ武装車ヲ離ルルコトヲ得ズ

第一百三十四條 護車ノ護路隊ハ總テ武装スルコトヲ要シ何時タルヲ
間ハズ銃彈ヲヘズシ又ハ擲ニ武装ヲ解クコトヲ得ズ

第一百三十五條 武装車内又ハ各車ノ守望ニ當ル長警ハ長官ノ命令ナ
キトキハ擲ニ職務ヲ離ルルコトヲ得ズ

第一百三十六條 護車ノ護路隊ノ遵守スベキ事項左ノ如シ

一 隨時列車ノ兩側ヲ監視シ蔽蔽セル場所ニ對シテハ格別
ニ注意スベシ

二 匪賊アルコトヲ發見シテハ速ニ約定セル暗號ニ
依リ之ヲ隣警(隣ノ警備兵)ニ通報シ且長官ニ報告ス
ベシ情況緊急ナルトキハ銃ヲ放チテ警備ヲ知ラシムル
コトヲ得

三 警備スルトキハ旅客ヲテ原ノ位置ニ身ヲ伏セシムル
コトヲ要シ倉惶逃奔スルコトヲ得ズ

四 警備スルトキハ列車ノ門ヲ緊閉シ以テ射撃抵抗スベシ
未ダ長官ノ命令ヲ得ザルトキハ下車スルコトヲ得ズ

- 五 旅客ノ各車ヲ往來スル形跡ノ疑フベキ者ニ對シテハ格別ニ注意スベシ
- 六 守望ノ崗警ハ坐臥、集談シテ手ニ武器ヲ離スコトヲ得ズ

第一百三十七條 特別ニ遵守スベキ事項ハ隊ヲ引率スル長官ニ於テ臨時ニ之ヲ授クモノトス

其ノ備フベキ事項左ノ如シ

- 一 特別注意スベキ事項
- 二 各種暗號及連絡法
- 三 隣崗（隣ノ見張り場所）及官長ノ位置
- 四 各種ノ臨時規定

第一百三十八條 列車ガ驛ニ入り停車スルトキハ各車ノ守崗（番兵）ハ下車シテ列車ノ門ヲ守護シ且乗降者等ヲ監視スベシ若疑フベキ

45

者アルトキハ阻止シテ之ヲ詢問スベシ隊ヲ引率スル官長モ亦下車シテ各警備兵ヲ巡視スルコトヲ要シ且構内警察官ト情報ヲ交換スベシ

46

第一百三十九條 警備ノトキハ車上又ハ下車シテ抵抗スベシ其ノ配置

方法ハ隊ヲ引率スル官長ニ於テ之ヲ定ム

第一百四十條 護路隊ハ専ラ護車ヲ以テ責任トス隊ノ官長ハ護車ノ辦

法又ハ警備ノ處置ニ對シテハ常ニ研究ヲ爲スベシ時ニハ各種

ノ警備ヲ爲ス情況ノ假定ノ下ニ抵抗スル方法ヲ研究シ務メテ

防備力ヲ増強シ時ニ際シ倉惶ナラザル様爲サシムベシ部隊ノ

訓練モ亦此ノ要領ニ依リ之ヲ行フベシ

第一百四十一條 護車ノ動作ハ専ラ守備防禦ニ屬ス若獨立ニテ匪賊ヲ

擊退シ能フルヤ否ヲ問ハズ事件發生シタルトキハ迅速ニ前後

ノ各驛及近隣ノ軍隊ニ報告スベシ若獨立ニテ匪賊ヲ擊退シ得

タル場合則チ歩銃ノ有効射程外ニ匪賊ガ鐵道線路ヨリ逃走シタルトキハ直ニ射撃ヲ停止スベシ

第一百四十二條 敵ニ出遇ヒタルトキノ作戰要領ハ總テ陸軍ノ各種典

令教範及一切ノ特別規定ニ依リ之ヲ施行ス

第一百四十三條 護車ノ護路隊ガ途中ニ於テ班ヲ換ヘ之ヲ交替セント

スルトキハ退班ノ隊ヲ引率スル官長ハ其ノ既往ノ情況ヲ詳細ニ接班ノ官長ニ報告スベシ

第一百四十四條 護車ノ護路隊ガ卸班シタル後ハ直ニ報告表ヲ作成シ

テ主管長官ニ報告スベシ其ノ表式左ノ如シ(表略)

第一百四十五條 接班スル護車ノ護路隊ハ列車ノ着驛スル二十分前ニ驛ニ整隊準備スベシ

第九章 駐 防(駐在防備)

第一百四十六條 各驛駐屯又ハ護車ノ卸班シタル警察及護路隊ニ付官

長ヨリ以下ハ總テ隨時出發スベキ準備アルコトヲ要ス

第一百四十七條 未ダ上車服務セザル護路隊ハ一切ノ規定計劃ニ從ヒ

軍隊教育ノ要領ニ依リ教育ヲ施行スベシ

第一百四十八條 各驛ニ駐在防備スル護路隊ハ獨立又ハ地方ノ軍隊・

警察ト協力シテ鐵道治安ノ妨害及交通擾亂ノ匪賊ヲ防備除滅

スベシ

第一百四十九條 驛ニ駐屯スル護路隊ハ該驛ノ警察トハ密接ノ連絡ヲ

保持スルコトヲ要シ階級ノ大小ニ依リ相互ニ服従スル義務シ

有ス

第一百五十條 區ニ駐屯スル護路隊長警ハ各該主管長官ノ指揮ヲ兼ネ

受クルモノトス

第十章 備查(公務ノ差シツカハシニ備フ)

第一百五十一條 鐵道長警及護路隊ハ守望、巡邏、勤務ヲ除クノ外駐

在所ニ若干人ヲ配置シ差遣（差シツカハス）ニ服セシメ以テ
差警（公務ニ因ル差シツカハシノ警官）ヲ備フベシ
第一百五十二條 差警ヲ備フルトキハ制服ヲ着用スベシ長官ノ許可ヲ
經ルニ非ザレバ外出スルコトヲ得ズ

第十一章 附 則

第一百五十三條 鐵道警察禮節規則及獎懲（賞罰）規則ハ別ニ之ヲ定

ム

第一百五十四條 本規則ニ未ダ盡サザルノ事項アルトキハ警務處ヨリ
單行法規ヲ制定スルコトヲ得但シ本規則ト抵觸スルコトヲ得

ズ

第一百五十五條 本規則ニ若修改スベキ處アルトキハ警務處ヨリ特種
警察署ヲ經由部ニ移牒シテ處理ヲ受クルコトヲ得

第一百五十六條 本規則ハ認可公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華中調查速報第一九八號
昭和十六年六月

國民政府公報抄（邦譯） 民國三十年五月三十日 第一八一號

興亞院華中連絡部

發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、厦門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集團總參謀長

支那派遣軍總司令部報道部長

中支那派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

各

九〇部

二部

二部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

漢口陸軍特務部長

支那方面艦隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長

支那方面艦隊報道部長

漢口海軍特務部長

在南京大使館

在上海、南京、漢口、各總領事

杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事

外務省大臣官房文書課

滿鐵上海事務所

實業研究所

中華民國法制研究會

各

各

一〇部

一部

一部

一部

各

各

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるもののみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目 次

- 一、軍用文官任用暫行條例……………頁
- 二、軍法及監獄人員任用暫行條例……………頁

軍用文官任用暫行條例

(中華民國二十六年七月二十二日修正公布)
中華民國三十年六月一日施行

第一條 軍用文官ノ任用ハ法律ニ別段ノ規定アルヲ除クノ外本條例ヲ適用スルモノトス

第二條 本條例ノ稱スル軍用文官ハ秘書、書記、司書(隊付書記)普通科學及外國語教官、譯述員、服務員、譯電員及其ノ他軍用ノ文職人員ヲ謂フ

軍官佐(將校)ガ軍用文官ニ任ジタルト雖モ其ノ原有身分ヲ保留ス但シ軍職ノ年數ニ算入セザルモノトス

第三條 軍用文官ト文職トノ等級比較左ノ如シ

一 中將ハ簡任職トシ二級乃至一級、少將ハ簡任職トシ五

1

級乃至三級、大佐ハ簡任職トシ八級乃至六級

二 中佐ハ薦任職トシ六級乃至一級、少佐ハ薦任職トシ十二級乃至七級

2

三 大尉ハ委任職トシ四級乃至一級、中尉ハ委任職トシ八級乃至五級、少尉ハ委任職トシ十二級乃至九級、准尉ハ委任職トシ十六級乃至十三級

第四條 簡任職軍用文官ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

一 現任又ハ曾テ簡任職文官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者

二 現任又ハ曾テ最高級薦任職文官ニ三年以上任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者

三 曾テ政務官ニ二年以上任ゼラレタル者

第五條

- 四 曾テ中華民國ニ特殊功績アリ又ハ革命ニ十年以上盡力シテ功績アリ且確實ナル證明ヲ有スル者
 - 五 必要ナル學術上ニ於テ特殊ノ著作又ハ發明アリ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 六 曾テ大佐以上ノ後備役軍官佐（將校）ニ任ゼラレ又ハ教育部認可ノ國內外大學ヲ卒業シ且曾テ大佐以上ノ軍用文官ニ一年以上任ゼラレ若ハ現任中佐ノ軍用文官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ經テ決定シタル者
- 薦任職軍用文官ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ
- 一 高等文官試験ニ合格シ又ハ高等文官試験ト同等ノ特種試験ニ合格シタル者
 - 二 現任又ハ曾テ薦任職文官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者

第六條

- 三 現任又ハ曾テ最高級委任職文官ニ三年以上任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 四 曾テ中華民國ニ功績アリ又ハ革命ニ七年以上盡力シテ成績アリ且確實ナル證明ヲ有スル者
 - 五 教育部認可ノ國內外大學ヲ卒業シ專門著作アリ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 六 曾テ少佐以上ノ後備役軍官佐（將校）ニ任ゼラレ又ハ教育部認可ノ專門學校ヲ卒業シ且曾テ少佐以上ノ軍用文官ニ一年以上任ゼラレ若ハ現任大尉ノ軍用文官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ經テ決定シタル者
- 委任職軍用文官ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

- 一 普通文官試験ニ合格シ又ハ普通文官試験ト同等ノ特種試験ニ合格シタル者
- 二 現任又ハ曾テ委任職文官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
- 三 曾テ國民革命ニ五年以上盡力シ成績アリ且確實ナル證明ヲ有スル者
- 四 現任文官雇員ニシテ三年以上繼續勤務シ成績優良現在最高給ヲ受クル者
- 五 教育部認可ノ專門學校ヲ卒業シタル者
- 六 曾テ少尉以上ノ後備役軍官佐(將校)ニ任ゼラレ又ハ主管教育機關認可ノ高級中學若ハ舊制中學ヲ卒業シ且曾テ少尉以上ノ軍用文官ニ一年以上任ゼラレ若ハ現任准尉ノ軍用文官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ

5

經テ決定シタル者

- 第七條 准尉ノ軍用文官ハ初中以上ノ學校又ハ職業學校同等ノ學校ヲ卒業シ若ハ相當ノ技能アリ且總テ試験ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ任用ス
- 第八條 軍用文官ノ任用ハ第四條、第五條、第六條ノ規定ニ依ル外且其レニ相當スル學識經驗ヲ有シ及職務ニ堪エルモノニ限ル
- 第九條 軍用文官ハ國民政府之ヲ任命シ又ハ最高軍事機關之ヲ任命シタル後ハ軍官佐(將校)ノ已ニ官位アル者ノ之ヲ登記セザルヲ除クノ外總テ最高軍事機關ヨリ該員ノ履歷ヲ一括シ録叙部ニ提出シテ級ニ依リ之ヲ登記スルモノトス
- 第十條 左記各項事情ノ一ニ該當スルトキハ軍用文官ニ任用スルコトヲ得ズ

6

- 一 公權剝奪者
- 二 公金費消者
- 三 會テ收賄ニ因リ處罰ヲ受ケタル者
- 四 阿片又ハ其ノ類似品ヲ吸飲スル者
- 五 身體衰弱又ハ持病アリテ職務ニ堪エザル者

第十一條 簡任ノ薦任、委任軍用文官ノ初任ハ最低級ヨリ之ヲ任命スベシ但シ特殊學識及經驗アル者ハ此ノ限ニ在ラズ
 軍用文官初任ノトキハ豫メ三月乃至六月署任（代理、見習）セシムルコトヲ得之ガ期限満了シ任ニ堪ヘ得ル者ハ更ニ實職ニ任命スルモノトス

第十二條 軍用文官ノ進級ハ左記ノ規定ニ依ル
 一 進級ハ逐級遞進スルコトヲ要シ一時ニ二級以上進級スルコトヲ得ズ

二 進級ハ已ニ停年ニ達シ且成績優良ニシテ上級ニ缺員アルトキニ限ル其ノ停年期左ノ如シ

少將	三年
大佐	四年
中佐	三年
少佐	三年
大尉	四年
中尉	二年
少尉	二年
准尉	二年

第十三條 軍用文官進級ノ選抜ハ所屬ノ單位ヲ以テ範圍トシ若本單位内ニ相當ノ人員ナキトキハ其ノ他ノ單位ヨリ之ヲ轉任セシメ又ハ第四條、第五條、第六條ニ掲グル資格者ニ就キ之ヲ選

拔任用スルコトヲ得

第十四條 一單位内ノ軍用文官ニシテ同一等級ナルトキハ最高長官ニ於テ之ヲ相互轉任セシムルコトヲ得但シ隨時中央ノ主管機關ニ報告シテ記録セシムベシ

第十五條 軍用文官ノ退職ハ左記ノ規定ニ依ル

一 志願退職

本人自ラ辭職ヲ願ヒ出テ許可ヲ經タル者

二 裁減退職（人事淘汰ニ因ル退職）組織又ハ編制變更ニ因ル人員減少

三 傷病退職

傷病、廢疾、衰弱ニシテ勤務ニ堪エザル者

四 考績退職（成績考査ニ因ル退職）成績考査三年連續ニ合格セザル者

第十六條 軍用文官ノ退職ニ付左記各項ノ一ニ該當スルトキハ終身

膾養金（扶養料）ヲ給與ス其ノ金額ハ軍官佐（將校）ト同ジ

一 年齢滿六十歳ニシテ實職ニ滿十五年以上勤務シタル者

二 在職中公務ニ因リ不具トナリタル者

第十七條 扶養料ヲ受領スル期間内ニ於テ左記事項ニ該當スルトキ

ハ扶養料ノ支給ヲ取消又ハ停止ス

一 刑事處分ノ罪ヲ犯シタル者ハ撤廢

二 中華民國々籍ヲ喪失シタル者ハ撤廢

三 再奉職シタル者ハ停止ス

第十八條 軍用文官ノ俸給ハ軍官佐（將校）ト同ジ

第十九條 後備役軍官佐ハ軍用文官在任期間中ハ其ノ退役俸給ヲ停止ス後備役軍官佐ガ軍用文官ニ任ゼラレテ退職スル迄ノ間之ガ

第十五條ノ規定ニ該當スルトキハ扶養料ヲ給與シ其ノ原有ノ

退役俸給ハ之ヲ取消ス
第二十条 軍用文官ニ任ゼラレタル後備役軍官佐ハ動員召集ザレタルトキハ直チニ現任職務ヲ解除シテ應召セシムベシ
第二十一条 本條例ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

軍法及監獄人員任用暫行條例

(中華民國二十六年七月二十二日修正公布)
中華民國三十年六月一日施行

第一條 軍法及監獄人員ノ任用ハ法律ニ別段ノ規定アルヲ除クノ外本條例ヲ適用スルモノトス
第二條 本條例ニ稱スル軍法及監獄人員ハ左ノ如シ

- (一) 軍法人員
 - 一 各級軍法官
 - 二 軍法裁判、軍法行政ヲ掌握スル司長、處長、科長及科員
- (二) 監獄人員
 - 一 軍人監獄長
 - 二 監獄行政ヲ掌握スル科長及科員

軍官佐ニシテ法律又ハ監獄ノ専門學校ヲ卒業シ軍法官又ハ監獄官ニ任ゼラレタルト雖モ其ノ原有身分ヲ保留ス但シ軍籍ヲ年數ニ算入セズ

第三條

軍法及監獄人員ノ官級ト文職トノ比較左ノ如シ

一 中將ハ簡任職トシ二級乃至一級、少將ハ簡任職トシ五

級乃至三級、大佐ハ簡任職トシ八級乃至六級

二 中佐ハ薦任職トシ六級乃至一級、少佐ハ薦任職トシ十

二級乃至七級

三 大尉ハ委任職トシ四級乃至一級、中尉ハ委任職トシ八

級乃至五級、少尉ハ委任職トシ十二級乃至九級、准尉

ハ委任職トシ十六級乃至十三級

第四條 簡任職 法人員ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

一 現任又ハ曾テ簡任職法官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者

二 現任又ハ曾テ最高級薦任職法官ニ三年以上任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者

三 教育部認可ノ法律専門以上ノ學校ヲ卒業シ曾テ大佐以

上ノ軍法官ニ任ゼラレタル者

四 教育部認可ノ法律専門以上ノ學校ヲ卒業シ現任中佐ノ

軍法官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考查ヲ經テ決定

シタル者

第五條 薦任職軍法人員ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

一 高等文官試験ノ司法官試験ニ合格シタル者

二 現任又ハ曾テ薦任職法官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シ

- タル者
- 四 教育部認可ノ國內外大學ノ法科ヲ卒業シ司法事務ヲ二年以上處理シ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 五 教育部認可ノ法律専門以上ノ學校ヲ卒業シ曾テ少佐以上ノ軍法官ニ任ゼラレタル者
 - 六 教育部認可ノ法律専門以上ノ學校ヲ卒業シ現任大尉ノ軍法官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良審査ヲ經テ決定シタル者

第六條

- 委任職軍法人員ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ
- 一 現任又ハ曾テ委任職法官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 二 普通文官試験ノ承審員（兼理司法縣公署ニ於テ縣長ヲ輔

- 三 佐シ縣長ト共同責任ニ民事訴訟事件ヲ審判スル官吏（試験及法院書記官試験ニ合格シタル者）
- 三 教育部認可ノ法律専門以上ノ學校ヲ卒業シ審査ヲ經テ合格シタル者
- 四 教育部認可ノ法律専門外學校ヲ卒業シ曾テ大尉ノ軍法官ニ任ゼラレタル者

第七條

- 簡任職監獄人員ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ
- 一 現任又ハ簡任職法官若ハ監獄官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 二 現任又ハ曾テ最高級薦任職法官若ハ監獄官ニ三年以上任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
 - 三 教育部認可ノ法律専門以上ノ學校ヲ卒業シ曾テ大佐以上

第八條 薦任職監獄人員ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

- 一 高等文官試験ノ司法官又ハ監獄官ノ試験ニ合格シタル者
- 二 現任又ハ曾テ薦任職法官若ハ監獄官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
- 三 現任又ハ曾テ最高級委任職法官若ハ監獄官ニ三年以上任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
- 四 教育部認可ノ監獄専門學校ヲ卒業シ又ハ大學ノ法律系ヲ卒業シ司法又ハ監獄事務ヲ二年以上處理シ審査ヲ經テ合格シタル者
- 五 教育部認可ノ法律又ハ監獄専門學校ヲ卒業シ若ハ監獄職務ノ經驗アリ曾テ少佐以上ノ軍法官又ハ監獄官ニ任ゼラレタル者
- 六 教育部認可ノ法律又ハ監獄専門學校ヲ卒業シ若ハ監獄職務ノ經驗アリ現任大尉ノ軍法官、監獄官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ經テ合格シタル者
- 七 憲兵科ノ大佐以上ノ軍官
- 八 憲兵科大尉ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ經テ

- 一 高等文官試験ノ司法官又ハ監獄官ノ試験ニ合格シタル者
- 二 現任又ハ曾テ薦任職法官若ハ監獄官ニ任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
- 三 現任又ハ曾テ最高級委任職法官若ハ監獄官ニ三年以上任ゼラレ審査ヲ經テ合格シタル者
- 四 教育部認可ノ監獄専門學校ヲ卒業シ又ハ大學ノ法律系ヲ卒業シ司法又ハ監獄事務ヲ二年以上處理シ審査ヲ經テ合格シタル者
- 五 教育部認可ノ法律又ハ監獄専門學校ヲ卒業シ若ハ監獄職務ノ經驗アリ曾テ少佐以上ノ軍法官又ハ監獄官ニ任ゼラレタル者
- 六 教育部認可ノ法律又ハ監獄専門學校ヲ卒業シ若ハ監獄職務ノ經驗アリ現任大尉ノ軍法官、監獄官ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ經テ合格シタル者
- 七 憲兵科ノ大佐以上ノ軍官
- 八 憲兵科大尉ニシテ已ニ停年ニ達シ成績優良考査ヲ經テ

第九條 委任職監獄人員ハ左記各項資格ノ一ヲ有スル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

- 一 普通文官試験ノ監獄官試験ニ合格シタル者
- 二 現任又ハ曾テ委任職監獄官ニ任ゼラレテ善差ヲ經テ合格シタル者
- 三 教育部認可ノ法律又ハ監獄專門學校ヲ卒業シ善差ヲ經テ合格シタル者
- 四 教育部認可ノ法律又ハ監獄專門學校ヲ卒業シ曾テ少尉以上ノ軍法官ニ監獄官ニ任ゼラレタル者
- 五 憲兵科少尉以上ノ軍官ニシテ成績優良考査ヲ經テ決定シタル者

第十條 准尉ノ軍法及監獄人員ハ法律、監獄專門學校又ハ憲警班

ヲ卒業シ試験ニ合格シタル者ヲ以テ之ヲ任用ス

第十一條 軍法及監獄人員ハ國民政府ヨリ之ヲ任命シ又ハ最高軍事機關ヨリ之ヲ任命シタル後ハ軍官佐ノ已ニ官佐アルモノノ之ヲ登記セザルヲ除クノ外總テ最高軍事機關ヨリ該員ノ履歴ヲ一括ニ銓叙部ニ提出シ級ニ依リ之ヲ登記スルモノトス

第十二條 左記各項事情ノ一ニ該當スル者ハ軍法及監獄人員ニ任用スルコトヲ得ズ

- 一 公權剝奪者
 - 二 公金費消者
 - 三 曾テ收賄ニ因リ處罰ヲ受ケタル者
 - 四 阿片又ハ其ノ類似品ヲ吸飲スル者
 - 五 身體衰弱又ハ持病アリテ職務ニ堪エザル者
- 第十三條 簡任、薦任、委任ノ軍法及監獄人員ノ初任ハ最低級ヨリ

之ヲ任命スベシ但シ特殊學識及經驗アル者ハ此ノ限ニ在ラズ
軍法及監獄人員初任ノトキハ豫メ三月乃至六月警監(代理、
見習)セシムルコトヲ得之ガ期限満了シ任ニ堪エ得ル者ハ更
ニ實職ニ任命スルモノトス

第十四條

軍法、監獄人員ノ進級ハ左記ノ規定ニ依ル

一 進級ハ逐級選進スルコトヲ要シ一時ニ二級以上進級ス
ルコトヲ得ズ

二 進級ハ已ニ停年ニ達シ且成績優良上級ニ缺員アルトキ
ニ限ル其ノ停年期左ノ如シ

少佐	中佐	大佐	少將
三年	三年	四年	三年

大尉	中尉	少尉	准尉
四年	二年	二年	二年

第十五條 軍法及監獄人員ノ選拔ハ所屬ノ單位ヲ以テ範圍トシ若本
單位内ニ相當ノ人員ナキトキハ其ノ他ノ單位ヨリ之ヲ轉任セ
シメ又ハ第四條、第十條ニ掲グル資格者ニ就キ之ヲ選拔任用
スルコトヲ得

第十六條 一單位内ノ軍法及監獄人員ニシテ同一等級ナルトキハ最
高長官ニ於テ之ヲ相互轉任セシムルコトヲ得但シ隨時中央ノ
主管機關ニ報告シテ記録セシムベシ

第十七條 軍法及監獄人員ノ退職ハ左記ノ規定ニ依ル
一 志願退職

- 本人自ラ辭職ヲ願ヒ出テ許可ヲ經タル者
- 二 裁減退職（人事淘汰ニ因ル退職）
- 組織又ハ編制變更ニ因ル人員減少
- 三 傷病退職

傷病、廢疾、衰弱職務ニ堪エザル者

四 考績退職（成績考査ニ因ル退職）

成績考査三ヶ年連續ニ合格セザル者

第十八條

軍法及監獄人員ノ退職ニ付左記各項ノ一ニ該當スルトキ

- ハ終身贍養金（扶養料）ヲ給與ス其ノ金額ハ軍官佐ト同シ
- 一 年齢滿六十歳ニシテ實職ニ滿十五年以上勤務シタル者
- 二 在職中公務ニ因リ不具トナリタル者

第十九條

扶養料ヲ受領スル期間内ニ於テ左記事項ノ一ニ該當スルトキハ扶養料ノ支給ヲ撤廢又ハ停止ス

一 刑等處分ノ罪ヲ犯シタル者ハ撤廢

二 中華民國々籍ヲ喪失シタル者ハ撤廢

三 再奉職シタル者ハ停止ス

第二十條

軍法及監獄人員ノ俸給ハ軍官佐ト同シ

第二十一條 後備役軍官佐ハ軍法及監獄人員ノ在任期間中ハ其ノ退役俸給ヲ停止ス

後備役軍官佐ガ軍法及監獄人員ニ任ザラレ退職スル迄ノ間之ガ第十八條ノ規定ニ該當スルトキハ扶養料ヲ給與シ其ノ原有ノ退役俸給ハ之ヲ取消ス

第二十二條

軍法官、監獄人員ニ任ザラレタル後備役軍官佐ハ勳員召集サレタルトキハ直ニ現任職務ヲ解除シテ應召セシムベシ

第二十三條

本條例ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ行フ

華中調查速報第一九九號
昭和十六年六月

國民政府公報抄（邦譯）

民國三十年六月二日

第一八二號

興亞院華中連絡部

281

REEL No. A-0280

0130

アジア歴史資料センター

發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、厦門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

參謀總長

支那派遣軍司令部報道部長

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

漢口陸軍特務部長

支那方面陸隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長官

支那方面陸隊報道部長

漢口海軍特務部長

南京、蘇州、杭州、各總領事

外務省大臣官房文書課

滿鐵上海事務所

東京

中央民衆法制研究會

九〇部

二部

二部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

一部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるるものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるもののみを掲載す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目次

一、參謀本部陸海空軍駐外武官條例	一
二、宣傳部組織法	三
三、尊崇中華民國國父致敬辦法	一
四、修正懲治盜匪暫行辦法第十四條條文	三

參謀本部陸海空軍駐外武官條例

(中華民國三十年五月二十六日修正公布)

- 第一條 參謀本部ハ國際間ノ軍事聯絡ヲ計ル目的ヲ以テ駐外武官ヲ大、公使館ニ派遣スルコトヲ得
- 第二條 駐外武官ニ武官長一人、輔佐武官一人乃至三人、助理官(補助官)一人乃至二人ヲ置ク必要アルトキハ副武官長一人ヲ増置シ且陸海空人員ヲ増派スルコトヲ得總テ事務ノ繁簡ニ應ジ隨時之ヲ増減ス
- 第三條 駐外武官ハ本部ヨリ軍機ニ通達、國際情況及該派遣國ノ語文ニ精通シ曾テ國內外ノ軍事大學及專門學校ヲ卒業シタル者ヲ選拔シテ各別ニ之ヲ任用ス
- 第四條 駐外武官ハ參謀總長ノ命令及駐在國ノ本國大、公使ノ指

1

- 導ノ下ニ軍事外交ヲ處理シ及軍務ヲ考察、軍學ヲ研究ス
- 第五條 駐外武官ノ重要ナル報告及業務報告ニ付必要アルトキハ本部ヨリ軍事委員會ニ移牒スルコトヲ得
- 第六條 駐外武官ハ適宜雇員ヲ置クコトヲ得
- 第七條 駐外武官ノ事務處理及其ノ細則ハ臨時ニ之ヲ定ム
- 第八條 駐外武官ノ出勤費(附表ノ如シ)及各項費用ハ別ニ之ヲ定ム
- 第九條 駐外武官ノ任期ハ三年トス若特殊事情アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得
- 第十條 本條例ハ認可公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス若未ダ盡サザルノ事項アルトキハ本部ヨリ申請シテ之ヲ修改スルコトヲ得

2

宣傳部組織法

(中華民國三十年五月二十八日修正公布)

- 第一條 宣傳部ハ國內及國際宣傳事項ヲ管理ス
- 第二條 宣傳部ハ本部ノ主管事務ヲ執行スル各地方ノ最高行政長官ニ對シテハ指示監督ノ責ヲ有ス
- 第三條 宣傳部ハ主管事務ニ就キ各地方ノ最高級行政長官ノ命令又ハ處分ニ對シ法令違反又ハ越權行為アルヲ認メタルトキハ行政院會議ニ提出シ議決ヲ經テ之ヲ停止又ハ取消スコトヲ得
- 第四條 宣傳部ニ左記各司局ヲ置ク
 - 一 總務司
 - 二 宣傳指導司
 - 三 宣傳事業司

3

- 四 特種宣傳司
- 五 國際宣傳局
- 第五條 宣傳部ハ行政院會議及立法院ノ議決ヲ經テ各司局又ハ其他ノ機關ヲ増設、廢止又ハ合併スルコトヲ得
- 第六條 宣傳部ハ必要アルトキハ行政院會議ノ議決ヲ經テ各委員會ヲ置クコトヲ得
- 第六條 總務司ハ左記事項ヲ掌ル
 - 一 文書ノ收發、分配、起案及保管ニ關スル事項
 - 二 部令ノ公布ニ關スル事項
 - 三 官印ノ保管ニ關スル事項
 - 四 本部及所屬各機關職員ノ任免賞罰ノ記錄ニ關スル事項
 - 五 本部ノ官產、官有物ノ保管ニ關スル事項
 - 六 本部經費ノ出納ニ關スル事項

4

第七條

- 七 本部ノ庶務及其ノ他各司局ニ屬セザル事項
- 一 宣傳指導司ハ左記事項ヲ掌ル
- 二 各級宣傳機關及工作人員ノ指導及訓練ニ關スル事項
- 三 新聞原稿ノ起案及發布ニ關スル事項
- 四 新聞紙、刊行物、通信及宣傳ニ關係スル出版物ノ指導、審査ニ關スル事項
- 五 外國文字新聞、刊行物、重要原稿及論文ノ翻譯、審査ニ關スル事項
- 六 新聞紙、刊行物、通信及宣傳ニ關係ナル電信及其ノ他出版物ノ検査ニ關スル事項
- 七 宣傳工作ノ考査ニ關スル事項
- 八 宣傳問題ノ解答ニ關スル事項

287

第八條

- 九 各種新聞紙、刊行物、圖書ノ徵集ニ關スル事項
- 一 一般ノ宣傳事業、宣傳工作ノ規劃及實施ニ關スル事項
- 二 新聞事業ノ聯絡及扶助ニ關スル事項
- 三 文化團體ノ聯絡及扶助ニ關スル事項
- 四 新聞社、雜誌社、通信社及其ノ他新聞事業組織ノ調査登記ニ關スル事項
- 五 記者及一般新聞事業従業員ノ調査及登記ニ關スル事項
- 六 新聞事業同業公會（組合）記者公會及文化團體ノ調査登記ニ關スル事項
- 七 宣傳文書、宣傳刊行物及通俗宣傳讀物等ノ編製ニ關スル事項
- 八 叢書、年鑑及其ノ他出版物ノ編輯ニ關スル事項

6

5

第九條 印刷及發行ニ關スル事項
特種宣傳司ハ左記事項ヲ掌ル

- 一 特種宣傳方案ノ規劃及實施ニ關スル事項
- 二 放送及宣傳ニ關係アル無線電信ノ管理ニ關スル事項
- 三 民營放送事業ノ登録及監督ニ關スル事項
- 四 國營映畫及演劇ニ關スル事項
- 五 一般映畫、演劇、歌曲ノ檢査及改進ニ關スル事項
- 六 放送、映畫、演劇事業及其ノ從業員ノ聯絡又ハ扶助ニ關スル事項
- 七 文藝宣傳ノ規劃及實施ニ關スル事項
- 八 各種藝術團體ノ監督、改進及扶助ニ關スル事項
- 九 其ノ他各司局ノ掌理ニ屬セザル宣傳事項

第十條 國際宣傳局ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 宣傳部ハ宣傳ノ便利ヲ謀ル爲適當ナル場所ニ宣傳處ヲ設クルコトヲ得其ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 宣傳部々長ハ本部ノ事務ヲ綜理シ所屬職員及各機關ヲ監督ス

第十三條 宣傳部ニ政務次長、常務次長各一人ヲ置キ部長ヲ輔佐シテ部務ヲ處理ス

第十四條 宣傳部ニ秘書四人乃至六人ヲ置キ部務會議及長官ノ交付シタル事務ヲ分掌ス

第十五條 宣傳部ニ參事四人乃至六人ヲ置キ本部ニ關スル法律命令ヲ起草兼査ス

第十六條 宣傳部ニ司長四人ヲ置キ各司ノ事務ヲ分掌ス

第十七條 宣傳部ニ科長、科員各若干人ヲ置キ長官ノ命ヲ承ケ各科ノ事務ヲ分掌ス

第十八條 宣傳部ニ特派員、編審、視察及專員各若干人ヲ置キ長官ノ命ヲ承ケ指定セル事務ヲ處理ス

第十九條 宣傳部々長ハ特任、次長、參事、司長及秘書二人、特派員二人乃至六人、編審二人乃至六人ハ簡任、其ノ他ノ秘書、科長、特派員、編審、視察、專員ハ薦任、科員ハ薦任又ハ委任トス

第二十條 宣傳部ニ會計主任一人、統計主任一人ヲ置キ歲計、會計、統計等ノ事項ヲ處理ス宣傳部々長ノ指揮監督ヲ受ケ且國民政府主計處組織法ノ規定ニ依リ直接主計處ニ對シ責ヲ負フ會計室及統計室ニ於テ佐理人員ノ必要アルトキハ宣傳部及主計處ヨリ本法ニ定メタル委任人員及雇員中ニ就キ協議ノ上之ヲ決定ス

第二十一條 宣傳部ハ事務上ノ必要ニ應ジ適宜雇員ヲ置クコトヲ得

第二十二條 宣傳部處務規程ハ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

尊崇中華民國國父致敬辦法

(中華民國三十年五月二十九日公布)

- 第一條 中華民國ヲ創立シタル中國國民黨總理孫先生ハ中華民國ノ國父ト尊稱スベシ其ノ尊敬法ハ各條ノ規定ニ依リ之ヲ行フモノトス
- 第二條 各級政府各合法政黨及人民團體機關ハ總テ講堂又ハ集會場所ノ中央ノ國旗ノ交叉スル下ニ永遠ニ中華民國國父ノ遺像及遺言ヲ懸グベシ
- 第三條 正式集會ヲ開會スルトキハ國父ノ遺像ニ向ヒ三度ノ最敬禮ヲ行ヒ且國父ノ遺囑ヲ恭シク朗讀スベシ
- 第四條 集會講演スル場合初回ニ國父ヲ言及スルトキハ起立又ハ立正シテ敬意ヲ表スベシ

11

- 第五條 文書、教科書、新聞紙、刊行物及一切ノモノニ關シ總理又ハ孫先生ヲ稱スルトキハ總テ國父ニ改稱シ且主管機關ニ於テ其ノ主管事項ヲ別ニ檢査細則ニ制定シテ之ヲ施行スベシ
- 第六條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

12

修正懲治盜匪暫行
辦法第十四條條文

(中華民國三十年五月二十九日修正公布)

第十四條 本辦法ハ中央政治委員會第二十一回會議ノ決議案ニ依リ
之ヲ訂正スベシ
本辦法ノ施行期間ハ訂正案頒布ノトキ迄之ヲ延長スルモノト
ス

13

291

華中調查速報第二〇〇號
昭和十六年六月

警政公報抄(邦譯) 民國三十年五月十一日 第三十七號

292

興亞院華中連絡部

REEL No. A-0280

アジア歴史資料センター

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるもののみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目 次

- 一、警政部直轄各機關呈復文件逾限懲戒暫行規則……………一頁
- 二、各級警察機關服裝保管規則……………七頁
- 三、取締攝影繪畫暫行辦法……………一三頁

警政部直轄各機關呈復
文件逾限懲戒暫行規則

(中華民國三十年四月十九日公布)

第一條 警政部直轄各機關ノ文書回答ニ對シ遲滯スル事情アルトキハ法令ニ別段ノ定メアルヲ除クノ外總テ本規則ニ依リ之ヲ處罰ス

第二條 警政部直轄各機關ノ文書回答期限ハ文内ニ明カニ期限ノ定メアルトキハ該期限内ニ之ヲ回答シ期限ノ定メナキトキハ總テ左記ノ規定ニ依ルベシ

- 一 電報期限二日
- 二 通電(各地各機關ニ送ル電報)又ハ代電(電報ニテ發スベキ文書ヲ速達便ニテ發送スルモノ)期限五日
- 三 公文書期限七日

1

四 冊報(表冊)期限十日

五 月報期限翌月十日内

六 季報(一年四期、三個月一期)次期ノ月初ノ十日内

七 年報期限翌年一月五日内

2

第三條 前條ニ掲グル各種公文ニシテ若記録、討論(研究議論)

辦法ノ考査又ハ審査及表冊起案ノ必要アリテ直ニ處理シ能

ハザルトキハ此ノ限ニ在ラズ但シ即時表ヲ作製警政部ニ報

告シテ記録セシムベシ其ノ表式ハ添付書類ノ規定ニ依ル

第四條 各種文書ノ期限ハ本部發達ノ郵便日時ヲ扣除スベシ文

書到着ノ日ヨリ之ヲ起算シ發送回答ノ日迄之ヲ計算スルモ

ノトス該地郵便局ノ受信期日印ヲ以テ證據トス

前項ノ規定ニ付特殊障礙發生シタルトキハ表ヲ作製シテ該

事實ヲ報告スベシ

第五條 本規則ノ懲戒處分ハ左記ノ四種ニ分ツ

- 一 減俸（原俸ノ十分ノ一、其ノ期限ハ一月乃至六月）
- 二 記大過（官吏ノ過失アル者ヲ記録シ譴責スル、大過失）
- 三 記過（官吏ノ過失アル者ヲ記録シ譴責スル、小過失）
- 四 申誠（譴責）

申誠ハ三回ヲ小過失一回トシ小過失三回ハ大過失一回トス
大過失三回ノトキハ降級（官等ヲ降ス）ス若降級スベキ級
ナキトキハ代理（見習）ニ降ス

第六條 左記各項事情ノ一アルトキハ減俸スベシ

- 一 電報期限ヲ五日超エタルトキ
- 二 通電（各地各機關ニ送ル電報）又ハ代電（電報ニテ發
スベキ文書ヲ速達便ニテ發送スルモノ）期限ヲ十日超
エタルトキ

4

第七條 左記各項事情ノ一アルトキハ大過失ニ處ス

- 一 電報期限ヲ三日超エタルトキ
- 二 通電（各地各機關ニ送ル電報）又ハ代電（電報ニテ發
スベキ文書ヲ速達便ニテ發送スルモノ）期限ヲ七日超
エタルトキ

三 公文書期限ヲ十日超エタルトキ

四 表冊又ハ各種ノ定例報告ノ期限ヲ十五日超エタルトキ

第八條 左記各項事情ノ一アルトキハ小過失ニ處ス

- 一 電報期限ヲ二日超エタルトキ
- 二 通電（各地各機關ニ送ル電報）又ハ代電（電報ニテ發
スベキ文書ヲ速達便ニテ發送スルモノ）期限ヲ五日超

3

エタルトキ

三 公文書期限ヲ七日起エタルトキ

四 表冊又ハ各種ノ定期報告ノ期限ヲ十日起エタルトキ

第九條 左記各項事項ノ一アルトキハ申誠ニ處ス

一 通電（各地各機關ニ送ル電報）又ハ代電（電報ニテ發スベキ文書ヲ速達便ニテ發送スルモノ）期限ヲ三日起エタルトキ

二 公文書期間ヲ五日起エタルトキ

三 表冊又ハ各種ノ定期報告ノ期限ヲ十五日起エタルトキ

第十條 本規則第六條乃至第九條ニ定メタル各處分ハ承辦人員（擔當者）ヲ以テ主ト爲ス但シ該管長官ハ連帶シテ之ヨリ一等輕キ懲戒ヲ受クルモノトス

第十一條 本規則ニ未ダ列舉セザルモノ而シ之ト事情相等シキモノア

5

ルトキハ警政部ニ於テ事情斟酌ノ上本規則第五條ニ依リ之ヲ懲罰スルモノトス

第十二條 本規則ニ未ダ盡サザルノ事情アルトキハ警政部ヨリ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第十三條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

ルトキハ警政部ニ於テ事情斟酌ノ上本規則第五條ニ依リ之ヲ懲罰スルモノトス

各級警察機關服裝保管規則

(中華民國三十年四月二十一日公布)

- 第一條 各級警察機關ノ服裝保管ハ總テ本規則ノ規定ニ依ル
- 第二條 服裝ノ保管方法ハ集中保管ヲ原則トス
- 第三條 各級警察機關ハ本機關ノ環境及財力ヲ詳細ニ調査シ服裝保管庫ヲ設置スベシ但シ警察人員ノ比較的少ナキトキハ主管機關ニ申請シテ之ヲ適宜ニ處理スルコトヲ得

前項服裝保管庫ノ設置及管理ニ付テハ左記各事項ニ注意スベシ

- 一 近隣民衆トノ隔離
- 二 建築物ハ燃焼ノ容易ナラザル材料ヲ用フベシ
- 三 庫内ハ絕對ニ吃煙禁止

- 四 已ニ電燈ノ設備アル地方ニ於テハ絕對ニ燈火ノ燃焼ヲ禁止シ且隨時ニ電線ヲ検査スベシ未ダ電燈ノ設備ナキ地方ニ於テハ火災ノ防止ニ對シテハ特ニ注意スベシ
 - 五 庫内ハ雜物ノ堆積又ハ引火シ易キ危險物品ノ貯藏ヲ嚴重禁止ス
 - 六 安全豫防ノ消防道具ヲ裝置スベシ
 - 七 空氣ノ流通、光線十分ニシテ地勢高ク乾燥シ濕氣又ハ霉爛(蒸氣ニテ腐ル)發生ノ虞ナキモノ
 - 八 清潔ヲ保持シ蟲、鼠ヲ撲滅シ以テ服裝ノ汚損ヲ防グベシ
 - 九 保存セル服裝ハ時々日光ニサラシ乾カシメ及防腐劑ヲ置クベシ
- 第四條 服裝保管人員ハ各該主管長官之ヲ任命シ且專案(特別事

第五

件トシテ上級主管機關ニ報告記録セシムベシ前項ノ服装保管職員ニシテ若交送アルトキハ三日内ニ之ヲ報告スベシ
條 服装保管人員ハ其ノ保管セル服装ニ對シテハ安全ニ之ヲ保管スル責ヲ盡スベシ若職務上必要ナル注意ヲセズ之ガ爲紛失又ハ損壞等ノ事情發生シタルトキハ保管人員ハ附表ノ甲ノ規定ニ依リ之ヲ賠償スベシ

第六

條 毎回ノ新服装取換ノトキハ其ノ舊服装ヲ保管員ニ返納シ以テ日光ニサラシ乾カシテ適當ニ之ヲ貯藏スベシ若シ破損アリ又ハ加工整理スル必要アルトキハ長官ノ許可ヲ經テ工人ヲ雇傭シ各別ニ繕フベシ之ニ支出スル經費ハ正式ニ支拂フコトヲ得

第七

條 保管スル服装ハ作製給付ノ年月及着用スルトキノ日時ヲ明記シ分類シテ番號ヲ記入シ且各別ニ包装ノ上ニ明瞭ナル記

第八

號ヲ記載スベシ
條 毎月末ニハ保管庫ニ保存シタル服装總額ト共ニ長官ノ着用セル服装數目ヲ表(附表丁)ニ作成シテ上級主管機關ニ報告シ該機關ニヨリ更ニ一括ニ總表(附表戊)ヲ作成シテ警政

第九

部ニ移牒記録セシムベシ
條 毎主管長官ハ隨時服装保管方法ニ就キ適當ナリヤ否ヲ研究視察シ以テ之ヲ改進スベシ

第十

條 服装保存期限及損壞賠償價格ハ總テ附表甲ノ規定ニ依ル
條 服装保管ニ付保存期限ヲ超エタルトキハ各機關ヨリ表ヲ作成シ上級主管機關ニ報告シテ取消シ且處理辦法ノ指示ヲ仰

第十一

グコトヲ要シ損ニ之ヲ變賣スルコトヲ得ズ
條 服装ニ付保存期限ヲ超エタルト雖モ未ダ許可ヲ經テ取消

第十二

サザルニ之ヲ損失シタルトキハ附表甲第三期ノ價格ニ依リ之

第十三條 賠償スルモノトス
 各長警、人夫ニシテ服装ヲ携帯逃走シ又ハ請假（缺勤）シ期限ヲ經過シタルモ未ダ復任セザル者アルトキハ主管官ヨリ三日内ニ表（附表乙）ヲ作成シ直接最高主管長官ニ報告シ保證人ニ附表甲ノ規定價格ニ依リ之ヲ賠償セシムベシ

第十四條 保證人ノ賠償期間ハ通知ノ日ヨリ一月ヲ超エタルコトヲ得ズ期限經過シタルモ賠償スル能力ナク又ハ失蹤シタル爲責任ヲ負フ者ナキトキハ該機關長官ヨリ附表丙ニ依リ分擔シテ之ヲ賠償スルモノトス

第十五條 服裝ガ保管期間内ニ於テ天災又ハ不可抗力ノ事實ニ遇ヒ之ガ爲損壞又ハ紛失シタルトキハ主管官ノ證明ヲ經テ上級主管機關ニ報告シ之ガ調査ノ結果事實ト認めタルトキハ賠償ヲ免ズルコトヲ得

第十六條 本規則ニ未ダ盡サザルノ事項アルトキハ臨時之ヲ修正スルコトヲ得

第十七條 本規則ハ認可公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

自十七年七月
至昭和十七年十月
日 日

對支中央機關設置關係
第一件
在支連絡部調查報告(興亞院)

外務省
記 録
自十七年七月
至昭和十七年十月
日 日

對支中央機關設置關係
第一件
在支連絡部調查報告(興亞院)

門類項目号
A
1
0
31-1

REEL No. A-0280

0 : 5 8

アジア歴史資料センター